

1 山梨県緑化計画中間見直しの主旨

本計画は、平成26年度から平成35年度までの10年間を計画期間としており、計画の中間期である平成30年度においては、社会情勢の変化や計画の進捗状況を踏まえ、現行計画の見直しを行う。

2 中間見直しの基本的考え方

基本方針や施策の方向について、SDGsを踏まえたものとする。
 国や県の関連計画の策定・改定を踏まえ、森林環境教育の充実やグリーンインフラの取り組みの推進などを図る。
 計画の進捗状況の確認と検証を行い、社会情勢等の変化を踏まえ、施策や指標の検討を行う。

3 中間見直し(素案)の概要

緑化計画で示す「具体的な緑化施策の方向」について、SDGsの17目標との関連を整理



グリーンインフラの推進につながる観点から緑化計画の施策を展開することを加える

グリーンインフラ：自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある地域づくりを進めるもの

「具体的な緑化施策の方向」で示している4本の柱に、本県の「やまなし森林・林業振興ビジョン」や「山梨県環境基本計画」などの策定・改定を反映

緑をつくる

自然環境や生物多様性に配慮した緑づくりの強化（環境基本計画など）

- 1 緑のカーテンなど、身近な場所での緑化の促進
- 2 都市部との交流による里山の再生と新たな利活用の推進
- 3 生物多様性の重要性への県民理解の促進

緑をいかす

木育の推進や交流による地域活性化を図るため緑の活用を強化
 （森林・林業振興ビジョンなど）

- 1 公共建築物等の木造化・木質化の促進など、県産材の利用拡大
- 2 森林の持つ「和み」「癒し」をもたらす機能の活用
- 3 農村と都市との地域間交流の促進と農山村の活性化を支援
- 4 生態系の保全と持続可能な利活用を図る「甲武信ユネスコエコパーク」の登録推進

指標の検証と見直し

- ・ 10指標の内、9指標について検証
- ・ 指標の見直し（9指標中、指標の見直し=1、目標の見直し=1 指標の追加=1）

< 指標の見直し >

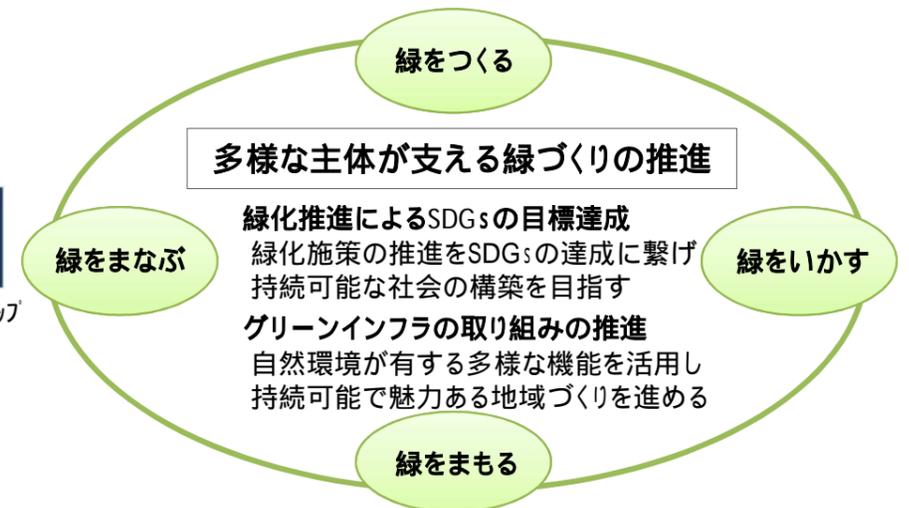
緑をまもる 「森づくりによるCO2吸収認証吸収量 認証件数」
 企業・団体の森づくりへの参加の促進を示す指標としてより適切に評価できる指標へ見直す
 H35目標 270t/CO2 22件（H29現状 14件）

< 目標の見直し >

緑をまなぶ 「緑化情報ホームページアクセス数」
 ホームページで緑化相談を受け付けるなど、利便性の向上を図ったことから目標を見直す
 H35目標 12,000件 24,000件（H29現状 22,259件）

< 指標の追加 >

緑をつくる **緑をまなぶ** 「生物多様性の言葉の認知度」
 生物多様性戦略を策定したことから、生物多様性の重要性への県民の理解度を示す指標として追加する
 H26を基準年にする 46% H35目標 75%以上



山梨県緑化計画の中間見直し(素案) 施策について

計画の基本目標

多様な主体が支える緑づくりの推進

目指すべき将来像

快適な生活環境、豊かな自然環境、美しい風景や景観を創出・保全する緑の空間の実現

赤字:追加 青字:修正 はSDGsの目標番号

緑をつくる



- 1 快適な生活環境のための緑づくり**
 - ・緑のカーテンなど、身近な場所での緑化の促進
 - ・地域における県民、民間団体、事業者の緑化活動への取り組みを推進
 - ・公共用施設、工場、事業所等の緑化推進及び緑地確保の促進と支援
 - ・郷土種を中心とした緑化樹の養成による持続的な樹木の供給
 - ・地域住民による農山村の景観形成活動や生態系保全等の取り組みを推進
 - ・街路樹の植栽等の整備による道路景観及び街並み景観の形成を図り、魅力ある街並みづくりを促進 ほか
- 2 自然環境や生物多様性に配慮した緑づくり**
 - ・生物多様性の保全に努めた森林の保全・整備
 - ・自然環境に配慮した工法の導入による自然と調和した治山技術の向上
 - ・都市部との交流による里山の再生と新たな利活用の推進
 - ・生物多様性の重要性への県民理解の促進 ほか
- 3 魅力ある地域の景観を演出する緑づくり**
 - ・街路樹の植栽等の整備による魅力ある街並みづくり
 - ・世界文化遺産「富士山」の景観保全と創造
 - ・山梨県環境緑化条例に基づく大規模小売店舗等の緑化を促進 ほか

緑をまもる



- 1 地域の景観や文化・歴史と調和した緑の保全**
 - ・有形文化財、史跡、名勝や巨樹・名木の保護を図る
 - ・都市部との交流による里山の再生と新たな利活用の推進(再掲)
 - ・人々に親しまれる美しい森林景観の形成と保全の推進 ほか
- 2 多様な公益的機能の発揮に向けた緑の保全**
 - ・県民や企業・団体など様々な主体による森づくり活動の促進と支援
 - ・やまなしの森づくりCO2吸収認証制度の推進
 - ・環境への配慮など国際的な基準により認められた持続可能な管理経営
 - ・社会全体で支える適切な森林整備の推進
 - ・生態系の保全と持続可能な利活用を図る「甲武信ユネスコエコパーク」の登録推進(再掲)
- 3 人と自然の共生のための緑の保全**
 - ・自然監視員・山岳レインジャーの巡回監視による自然環境の保全を図る
 - ・「県レッドデータブック」を活用した自然環境の保全
 - ・「やまなし水施策ビジョン」及び「やまなし『水』ブランド戦略」に基づく施策の展開
 - ・「水」を地域資源とした持続可能な地域づくり ほか

緑をまなぶ



- 1 緑にふれあう意識の醸成と「場」の提供**
 - ・緑の普及啓発「緑の教室」の実施
 - ・「やまなし環境教育等推進行動計画」に基づく、環境教育や環境学習の推進
 - ・学校、民間団体、地域との連携を図り、こどもエコクラブや緑の少年隊などの活動の促進を図る
 - ・自然体験活動や自然を活用した子育て等、幼児教育の推進
 - ・公共建築物等の木造化・木質化の促進など、県産材の利用拡大(再掲)
 - ・郷土学習教材などを活用した郷土学習の推進 など
- 2 緑化推進に向けた人材の育成**
 - ・緑サポーターなど緑づくりの専門家の養成
 - ・県民・事業者の環境教育や環境学習を支援する指導者を派遣
 - ・教職員や研究者等を対象とした緑の環境教育等に関する指導者養成プログラムの実施
 - ・ICT技術の活用等、新技術を活用できる人材育成
- 3 緑に関する情報の提供と調査研究の推進**
 - ・緑に関する学習機会の提供、樹木医による緑化相談
 - ・「やまなしの環境」等、県HP等を活用した情報提供
 - ・研究機関や大学等との連携による技術力や研究成果を活用した調査研究の推進を図る ほか
- 4 緑に関わる多様な主体の連携**
 - ・「山梨県地球温暖化対策実行計画」に基づき「やまなしクールチョイス県民運動」を推進
 - ・クリーンキャンペーンや水環境を保全するための取り組みを促進 ほか

緑をいかす



- 1 地域の特性を活かした緑の活用**
 - ・自然観察やフットパスなど、体験プログラムの開発を推進
 - ・グリーンバンク事業を通じた樹木の活用
 - ・農村と都市との地域間交流の促進と農山村の活性化を支援
 - ・公共建築物等の木造化・木質化の促進など、県産材の利用拡大
 - ・生態系の保全と持続可能な利活用を図る「甲武信ユネスコエコパーク」の登録推進
- 2 多様なニーズに対応した緑の活用**
 - ・健康づくりの場として「和み」と「癒し」をもたらす機能を有する森林として活用
 - ・森林と親しみ、森林への理解を深めるプログラムの充実を図る ほか
- 3 環境教育・交流の「場」としての緑の活用**
 - ・森林や緑を大切に作る心を育てるため、緑を活用した教育プログラムを推進
 - ・森林体験学習等を通じて、特色ある環境教育を推進 ほか